

踏 み 跡 < My mountains >

奥多摩	石尾根 (六ツ石山と鷹ノ巣山)	No.007
-----	-----------------	--------

雲取山(2017.1m)から南東へ長く尾を引き氷川駅の後まで伸びる稜線は「石尾根」と名が付いている。六ツ石山・七ツ石山は、いずれも山頂付近の石灰岩の岩塊が由来とされているが、数字の持つ意味はわからない。石山の連なりから「石尾根」の名前が誕生したものと思うが詳細は不明。また、谷間の集落には「城」「峰」「奥」など一文字の集落名が散見し、これまた興味をそそり、地形図を眺めていると行ってみたいくなる尾根である。

昭和 36 年 9 月 3 日

原君と二人で出かけた。新宿発6時20分長野行。立川で青梅線に乗り換えて、氷川着8時45分。天気は晴、身支度を調べて、水を満タンにして8時55分に出発。地形で見ると氷川駅前は海拔338m)なので、今回の山行の最高点の鷹ノ巣山との標高差は約1400mある。

駅前から青梅街道を西へ進み日原街道と別れてしばらく歩き、消防団の小屋の手前を右に曲がり集落を抜けると、三の木戸山へつながる林道に入る。単調な巻き道による登りとどこまでも続く深い林、何の変化もないため疲労も早い。

三ノ木戸山(1177m)通過は10時20分。緩い勾配なのは良いが、高度が上がらず、暑くて長いのには閉口。六ツ石山への登りの途中で時計を見たら12時なのでついに我慢できず昼食。

特に食事のことならば、二人だと意見の一致は早い、道端でお湯を沸かしてたっぷり昼休み。

13時、満腹に満足して再び歩き出すと、15分ですぐにカヤトの中の六ツ石山(1478.9m)に到着。この道は奥秩父の主稜線につながっているのだと思うと、胸が高鳴る。

多摩川の向こうに御前山の三つの頭がよく見える。奥多摩の盟主といわれるだけの貫禄と美しさがある。

城山(1523m)は平将門の居城があった所で、将門馬場(1572m)は将門が馬術の稽古をした所という言い伝えがある。この辺り一帯は平将門伝説がたっぷり染みこんでいる

城山、将門馬場、水楢山とカヤトの稜線を登るうちに鷹ノ巣山に15時に到着。鷹ノ巣山は見えてから辿り着く

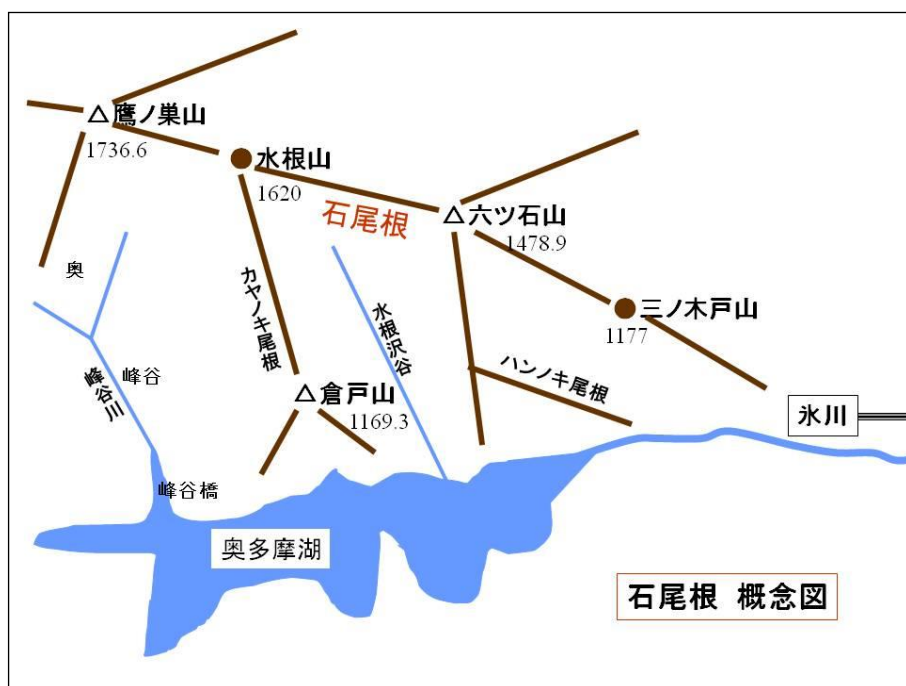
までが長く、山が大きい。

鷹ノ巣山は1736.6m。5万分の一の地図「五日市」の中では一番高い山。

徐々にガスが上がってきてあっという間に景色が見えなくなり、小雨がぱらついてきた。

日蔭名栗峰・千本ツツジから奥多摩湖へ下山する計画だったが、現在の時刻と天候から判断して、ここから峰谷へ下山することにした。

奥部落の段々畑の中を下り、峰谷に着いたらもう17時を過ぎていた。氷川行の最終バスは17時50分発。(70円だった)



石尾根は奥秩父の主稜線の東端に位置する。この山脈の大きさと深さを肌で感じた山行だった。

以上